



# 50周年記念事業



## 葛畠農村歌舞伎伝承会

に支援…金一封

葛畠農村歌舞伎伝承会は、

- 1、舞台を保存・保護している葛畠区
  - 2、歌舞伎公演を行う葛畠座
  - 3、後世に伝承していく、せきのみや子ども歌舞伎クラブ
- の3団体の組織で活動・運営しています。

伝統芸能を守ろうと、復活から伝承へと受け継がれている、葛畠農村歌舞伎伝承会に敬意を表して活動支援をさせていただきました。

兵庫・但馬の屋根、氷ノ山の深い谷あいに葛畠（かづらはた）座の舞台、芝居堂があります。

入母屋萱葺きの大屋根に、回り舞台、花道など歌舞伎特有の機能を備え、周辺の美しい棚田の景観とあいまつて全国有数の農村歌舞伎舞台として、昭和43年に国の重要有形民俗文化財に指定されています。

この舞台で江戸時代中期から、農村歌舞伎が演じられてきました。

大阪の芝居小屋で修行した藤田甚左衛門がふるさと葛畠に帰り、地元の農業を営む人たちと結成したのが「葛畠座」です。明治3年のことでした。

昭和の初めごろまで盛んだった葛畠の農村歌舞伎は一時、衰退します。舞台の改修にあわせて昭和41年に再び公演しますが、その後、長らく途絶えていました。

しかし、地元住民の「もう一度歌舞伎を」という熱い思いが県や関宮町（現・養父市）や関係者を動かし、37年ぶりの復活公演を、平成15年に果たしました。

平成の「葛畠座」は、農業やサラリーマンなど全員、地元葛畠の人たちで、すべて男性で構成されています。松竹株式会社上方歌舞伎塾の指導者から厳しい稽古を受けて迎えた本番の舞台は、谷間に沈む夕日を背に江戸時代からの伝統を蘇らせました。

専門家やマスコミからも高い評価を受けるとともに、年々、活動の幅を広げ、平成18年には西宮市にある県立芸術文化センターでの、単独公演を成功させることができました。

また、次代を担う歌舞伎役者を育成するため、平成15年から子どもたちによる農村歌舞伎公演と、講座を毎年行っています。

このような活動を通して、葛畠における農村歌舞伎の伝統を守っておりますが、国・県・市の補助金に依存している状態では、年々運営が厳しくなってきました。



# 「せきのみや子ども歌舞伎」

今年で10年目を迎えます「せきのみや子ども歌舞伎クラブ」は、37年ぶりに農村歌舞伎を復活させた葛畠区の大人達に触発され、葛畠区の子どもたちを中心に結成されました。現在は、市全域から募集した小学1年生から中学2年生までの8名が全国サミットが終わった7月から厳しい稽古を重ねています。萱葺きの舞台の周辺は棚田が広がり、のどかな農村の風景をバックに舞台の一般公開や公演を行っています。

平成23年8月に東京で行われた全国子ども民俗芸能大会に葛畠三番叟で出演しました。今回演じます子どもたちはその時に三番叟で出演した3人です。

郷土の伝統芸能である「農村歌舞伎」に子どもたちが取り組むことにより、地域文化の理解、多世代にわたる地域コミュニティの再生など、郷土に対する理解と愛着を育み、地域文化を後世に繋ぐ礎となっています。



身替座禅の稽古



第5回公演 集合写真



歌舞伎 稽古の様子



華麗な葛畠三番叟(平成15年復活公演にて)

